

事業名	ひきこもり者に対する包括的な支援
資金分配団体	NPO法人X
実行団体	

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	<input checked="" type="checkbox"/>	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	分野	<input checked="" type="checkbox"/>	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援	
				<input checked="" type="checkbox"/>	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援	
				<input type="checkbox"/>	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援	
	<input checked="" type="checkbox"/>	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動		<input checked="" type="checkbox"/>	④働くことが困難な人への支援	
				<input checked="" type="checkbox"/>	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援	
	<input type="checkbox"/>	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動		<input type="checkbox"/>	⑥地域の働く場づくりの支援	
				<input type="checkbox"/>	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援	

SDGsとの関連

ゴール	ターゲット
4.質の高い教育をみんなに	4.4 2030年までに、技術的・職業的スキ
8.働きがいも経済成長も	8.6 2020年までに、就労、就学及び職業
10.人や国の不平等をなくそう	10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、

実施時期	2019年11月～ 2023年3月	直接的対象グループ	ひきこもり者、ひきこもり者の家族	間接的対象グループ	学校関係者、就職先企業等
対象地域	A県, B県, C県, D県	人数	ひきこもり者500人, ひきこもり者の家族1000人	人数	学校関係者100人, 就職先企業等300人

I.団体の社会的役割

(1) 団体の目的
・ひきこもりという大きな社会問題の軽減、解決を目指す。 ・ひきこもり者の支援においては、復学や就労のみを目標とするのではなく、最終的にはひきこもり者本人や家族等が望む人人生を送ることを目標に支援を行う。 ・団体としては、ひきこもり以外にも若者が活躍する社会の実現を目指す。
(2) 団体の概要・活動・業務
(1) 中間支援組織としての活動: 寄付金を集め、様々な機関への助成を行っている(助成金としておおよそ5千万円程度の資金を有しており、そのうち750万円を法人の管理費とし、残りを複数の団体への助成金として使用)。 (2) 事業実施者としての活動: ひきこもり者(特に若者)の支援を行う(ひきこもり者の相談対応、訪問、学習支援など)。

II.事業の背景・課題

(1) 社会課題
2019年3月、内閣府からは15～39歳のひきこもり者は全国すいけいで54万1千人を上回り、さらに40～64歳は全国推計で61万3千人いるという調査結果が発表され、いまだにこの問題は解決に至っておらず、大きな社会問題としてあり続けている。この調査結果からは、ひきこもりの高齢化・長期化という問題も指摘され、若年者向けのみではない、中高年齢者向けの取り組みも必要であることが指摘されている。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
厚生労働省は、「ひきこもり対策推進事業」を開始し、ひきこもり地域支援センターを設置することで関係機関が連携をして支援にあたる体制をととのえている。 また、2019年からは「生活困窮者自立支援制度」との連携も強化し、さらにその支援体制を強化している。
(3) 休眠預金等交付金に係わる資金の活用により本事業を実施する意義
ひきこもり支援については各地で様々な団体が自主財源を使って先進的な取り組みを行っており、それが関係者間で共有されていない。休眠預金の制度を活用して、複数の実行団体と協働してこの問題解決を図ることにより、各地で行われている先進的な取り組みが統合され、様々な地域で実施されることで、全国的にこの課題解決が図られると考えられる。

Ⅲ. 事業設計:目標設定

(1)中長期アウトカム	指標			
支援地域において、ひきこもりやその家族の問題が軽減された地域になる(当事者のひきこもり状態の改善、家族の幸せの実現、地域社会としての社会的包摂の実現)	・支援地域における引きこもり者の生活の質が向上したひきこもり者の人数 ・支援地域における復学・復職(就職)したひきこもり者の人数 ・支援地域における自分の人生に満足している(QOLの高い)家族の人数 ・支援地域における社会的包摂分野での学校や企業の取り組みの変化			
(2)短期アウトカム（資金的支援）	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1. 支援地域において、ひきこもり者がサポートグループとつながり、ひきこもり状態が改善している。	①'サポートグループと継続的に繋がっているひきこもり者の人数 ②受けられるサービスを理解しているひきこもり者の数 ③ニーズに沿った専門的支援を受けているひきこもり者の数	支援対象地域全体で約120人	支援対象地域全体で300人(初期値より180人増加)	2023年2月
2. 支援地域において、ひきこもり者家族がサポートグループにつながり、家族のひきこもり当事者に対する支援環境が改善している。	①サポートグループに新たに繋がった世帯数 ②家族の意識 ③具体的な支援方法の選択肢を理解している世帯の数	①支援対象地域全体で50人 ②ひきこもり者を抱える家族の生活や地域に対する意識(ベースライン調査を行う)	①支援対象地域全体で150人(初期値より100人増加) ②ひきこもり者を抱える家族の生活や地域に対する意識(エンドライン調査を行い、ベースラインと比較する)	2023年2月
3. 支援地域において、学校等のひきこもり問題に関する認知が高まることにより、学校関係者がひきこもり当事者や家族を支援機関へつなげられる状態になる。	①ひきこもり問題に積極的に取り組む学校の数 ②ひきこもり問題に対する学校関係者の意識 ③専門的支援やサポートグループと繋がっている学校の数	①支援対象地域全体で●か所(ベースライン調査で特定する) ②ひきこもり問題に対する学校や企業の意識(ベースライン調査を行う) ③支援対象地域全体で〇〇人	①支援対象地域全体で●か所(初期値より10か所増加) ②ひきこもり問題に対する学校や企業の意識(エンドライン調査を行い、ベースラインと比較する)	2023年2月
4. 支援地域において、企業等のひきこもり問題に関する理解が深まることにより、ひきこもり当事者に対する就労の機会の提供を模索する企業が増える状態となる。	①ひきこもり問題に積極的に取り組む企業の数 ②ひきこもり問題に対する企業の意識	①支援対象地域全体で●か所(ベースライン調査で特定する) ②ひきこもり問題に対する企業の意識(ベースライン調査を行う)	.....	.....
(2)短期アウトカム（非資金的支援）	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
5. 支援地域において、実行団体間のコミュニケーションが深まることにより、実行団体同士や関係機関同士の連携が構築される。	①関係団体間のネットワークのつながりの数 ②関係団体間のネットワークのつながりの質 ③先進的事例を活用した取組の数	①実行団体が確定してから把握 ②実行団体が確定してから把握	①すべての団体がつながっている ②つながりの質の向上(初期状態把握後、目標状態を設定する)	①2022年2月 ②2022年2月 ③2023年2月
6. 支援地域において、実行団体のスキルアップや組織基盤の強化が図られることにより、引きこもりやその家族に対する民間公益活動が活性化される。	①十分なスキルを備えた実行団体の数 ②実行団体の財政状況 ③実行団体が生み出したプログラムの有効性	①実行団体が確定してから把握 ②実行団体が確定してから把握 ③実行団体の取り組みそれぞれのエビデンスレベルは、開始時はそれほど高くないことを想定	①全ての実行団体 ②実行団体が確定してから設定 ③実行団体の取り組みそれぞれについて、初状態よりエビデンスレベルを高める	①2022年2月 ②2022年2月 ③2023年2月

(3)アウトプット(資金的支援)	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1. 支援地域において、ひきこもり当事者が何らかのサポートにつながった状態になる。	① 何等かのサポートにアクセスしたひきこもり当事者の数 ② サポートに継続的にアクセスしているひきこもり当事者の数 ③ より専門的な支援につながっているひきこもり当事者の数	①支援対象地域全体で100人 ②..... ③.....	支援対象地域全体で500人(初期値より400人増加)	2022年2月
2. 支援地域において、ひきこもりの家族が何らかのサポートにつながった状態になる	① 何等かのサポートにアクセスしたひきこもりのいる世帯数 ② サポートに継続的にアクセスしているひきこもりのいる世帯数 ③ より専門的な支援につながっているひきこもりのいる世帯数	① 支援対象地域全体で200人 ②..... ③.....	支援対象地域全体で800人(初期値より600人増加)	2022年2月
3. 支援地域において、学校が、ひきこもりに対する積極的対応に向けた取組を行う状態になる。	①ひきこもり問題に関心を持っている学校関係者の人数 ②ひきこもり当事者や家族に対する具体的な対応方法を理解している学校の数	①支援対象地域全体で50人 ②ひきこもり問題に対する学校や企業の意識(ベースライン調査を行う)	①支援対象地域全体で200人(初期値より150人増加) ②ひきこもり問題に対する学校や企業の意識(エンドライン調査を行い、ベースラインと比較する)	2022年2月
4. 支援地域において、企業が、ひきこもりに対する積極的対応に向けた取組を行う状態になる。	①ひきこもり問題に関心を持っている企業関係者の人数 ②.....	.....	.....	.....
(3)アウトプット(非資金的支援)	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
5. 支援地域において、実行団体間や関係機関同士のコミュニケーションが深まる	①常時あるいは定期的な情報のやりとりがある実行団体の数 ②先進的事例を共有する勉強会の数	実行団体が確定してから把握	実行団体が確定してから設定	2022年2月
6. 支援地域において、実行団体への様々なサポートが行われる(この経験が蓄積される)	研修会の実施や助言の回数等、実行団体に対して行ったサポートの回数	実行団体が確定してから把握	実行団体が確定してから設定	2022年2月

IV. 事業設計:具体的な活動

(1)活動(資金的支援)	時期
【アウトプット1.「支援地域において、ひきこもり当事者が何らかのサポートにつながった状態になる」に対する活動】 1－1. ひきこもり当事者に対する居場所支援を行う。 1－2. ひきこもり当事者に対する就労支援を行う。 1－3. ひきこもり当事者に対する相談支援を行う。 1－4. ピア・サポーターによる取組を活発化する。 1－5. ひきこもり当事者に対する先進的取組を展開する。 1－5. ひきこもり当事者が何等かのサポートからよりニーズに沿った専門支援機関へ繋がれる仕組みができる。 1－6. ひきこもり者が多様なサポートグループの存在を知れるよう、様々な媒体を活用した広報活動を行う。	2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月
【アウトプット2.「支援地域において、ひきこもりの家族が何らかのサポートにつながった状態になる」に対する活動】 2-1. ひきこもりのいる家族に対する多様な支援取組を展開する。 2-2. ひきこもりのいる家族に対する居場所支援を行う。 2-3.ひきこもりのいる家族が専門家や専門機関へ適切に繋がれる仕組みができる。 2-1. 家族が多様なサポートグループの存在を知れるよう、様々な媒体を活用した広報活動を行う。	2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月
【アウトプット3「支援地域において、学校が、ひきこもりに対する積極的対応に向けた取組を行う状態になる」に対する活動】 3-1. ひきこもりの社会的課題、取組などについて理解を深める。 3-2 ひきこもり当事者や家族への理解を深める。	2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月 2020年3月～2023年1月
【アウトプット4.「支援地域において、企業が、ひきこもりに対する積極的対応に向けた取組を行う状態になる」に対する活動】 4－1. .... 4－2. .... 4－3. ....	..... ..... .....
(1)活動(非資金的支援)	時期
【アウトプット5「支援地域において、実行団体とのコミュニケーションが深まる」に対する活動】 5－1. 実行団体との事前評価セッションの開催およびニーズ把握 5－2. 実行団体への相談対応 5－3. 実行団体同士のネットワーク形成支援(情報交換・意見交換会の実施など) 5－4. 実行団体への情報提供 5－5. ....	2020年2月 2020年3月～2023年2月 2020年2月、2021年2月、2022年2月、その他随時 2020年3月～2023年2月 .....
【アウトプット6「支援地域において、実行団体への様々なサポートが行われる(この経験が蓄積される)」に対する活動】 6－1. 採択した実行団体に対する評価等のレクチャー 6－2. 実行団体への相談対応 6－3. 実行団体への資源提供(金銭以外での) 6－4. 中間評価および事後評価の支援 6－5. 実行団体も外部団体もアクセスできるオープンな情報・リソースを整備・充実する(知の構造化) 6－6. 実行団体、当該分野の活動を外部に紹介し、理解を広げ。資源を集める 6－7. エコシステムの構築支援 6－8. ....	2020年3月 2020年3月～2023年2月 2020年3月～2023年2月 2022年2月、2023年2月 2022年3月 2020年3月～2023年2月 2020年3月～2023年2月 .....



IVインプット

インプット					
資金	①事業費 (自己資金含む)	内訳:助成金等充当額	管理的経費	②PO伴走支援活動費	③評価関連経費
	¥245,000,000	¥200,000,000	¥30,000,000	¥28,000,000	¥10,000,000
人材	内部:合計5人(プログラム・オフィサー1人、シニアスタッフ2人、アシスタントスタッフ2人) 外部:合計1人(評価アドバイザー1人、財務専門家1人、その他伴走支援用専門家2名ほど予定)				
資機材	ノートパソコン、プロジェクター、プリンター				
その他	業務委託費(チラシの作成・印刷)、会議室利用費 等				